

茨木市総合戦略

平成27年度進捗状況

茨 木 市

平成28年12月

目次

1	総合戦略進捗状況について	1
2	平成27年度進捗状況管理結果	2
3	総合戦略進捗状況管理シートの見方	3
4	総合戦略進捗状況管理シート	
	・基本目標1 若い世代に選ばれるまち	4
	施策の方向性 1-1 就職を機に転出する世代を引き留める	
	施策の方向性 1-2 子育て・ファミリー層の居住地選択における優位性をいかし、さらに伸ばす	
	施策の方向性 1-3 大学生が将来、茨木市に帰ってくるような種まきとしての取組	
	・基本目標2 出産・子育てを応援するまち	8
	施策の方向性 2-1 心理的・経済的に安心して出産、子育てできる環境の整備	
	施策の方向性 2-2 仕事と子育てを両立することのできる子育て支援	
	施策の方向性 2-3 次代の親となる若者が子どもをもち、育てるための意識啓発	
	・基本目標3 高齢者がいきいき活躍できるまち	12
	施策の方向性 3-1 高齢者の居場所と出番の創出	
	施策の方向性 3-2 高齢者の地域・経済での活躍	
	施策の方向性 3-3 地域で自立した生活を元気に送り続ける	
	・基本目標4 魅力と活力あふれるまち	16
	施策の方向性 4-1 人口動態を支える魅力と機能を備えた拠点の形成	
	施策の方向性 4-2 大学・研究機関が多く立地しているというポテンシャルを最大限に活用	
	施策の方向性 4-3 彩都地域における産業集積の促進	
	施策の方向性 4-4 空き家や公共施設更新に伴う取組	
	施策の方向性 4-5 公共交通をはじめとした交通環境の整備	
	施策の方向性 4-6 地域特性をいかした産業施策と雇用促進	
	施策の方向性 4-7 魅力発信の強化	

•基本目標 5 個性・資源をいかした北部地域の活性化……………	24
施策の方向性 5-1 魅力発信機能の強化	
施策の方向性 5-2 交流人口獲得に向けた取り組み	
施策の方向性 5-3 6次産業化や里山的景観活用などの取組	
•基本目標 6 安全安心にいつまでも暮らせるまち……………	28
施策の方向性 6-1 安心して子育てできるまちの推進	
施策の方向性 6-2 災害に備える	
施策の方向性 6-3 消防・救急・医療体制の充実	

1 総合戦略進捗状況について

本市では、平成 28 年 2 月 29 日に「茨木市人口ビジョン」及び「茨木市総合戦略」を策定しました。

総合戦略では、茨木市人口ビジョンにおける人口展望の達成に向けて、平成 27 年度から今後 5 年間に取り組むための 6 つの基本目標をはじめ、それを構成する 22 の「施策の方向性」や「主な取組」などを設定しています。

総合戦略の進捗状況については、基本目標ごとに設定した数値目標や施策の方向性ごとに設定した重要業績評価指標（KPI）等の達成度を検証し、改善を行うことが求められています。

そこで、本市では施策の方向性ごとに外部有識者の意見も踏まえながら、進捗状況管理シートを作成しました。

なお、進捗状況管理シートの作成に当たっては、総合戦略と第 5 次茨木市総合計画重点プランが密接に関係していることから、総合計画の進行状況の評価を行う「施策評価」と連携させるとともに、改善を行う仕組みとしては、総合計画における実施計画において行うこととしています。

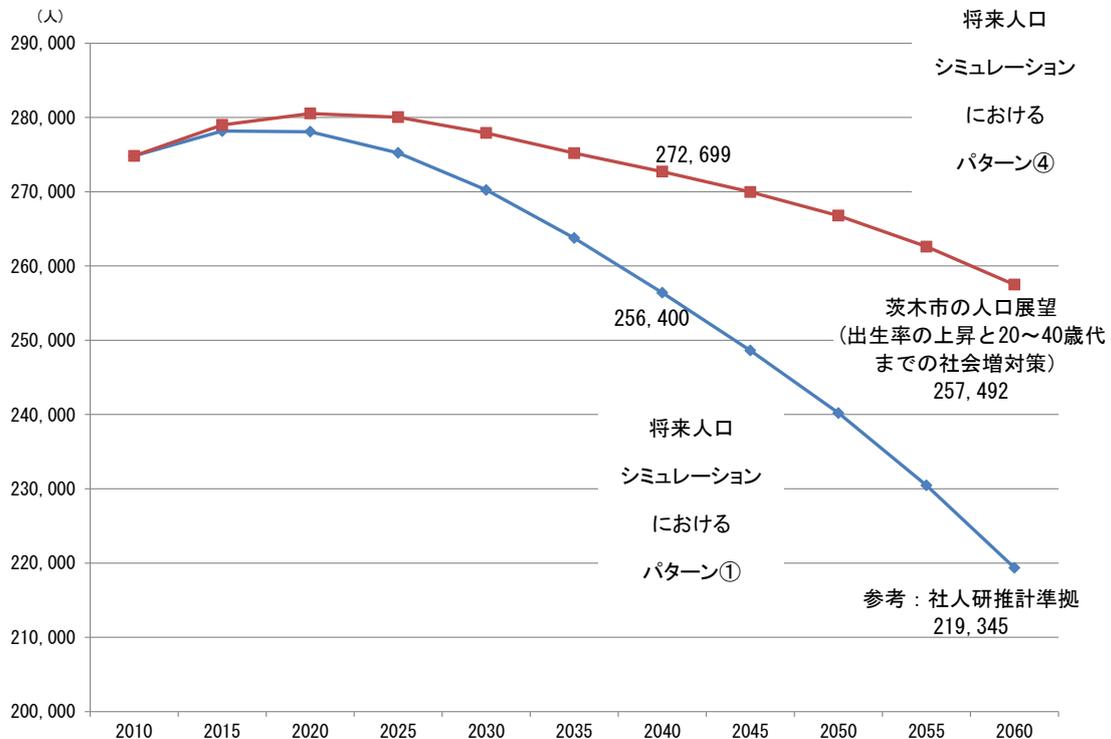


図 茨木市の人口展望

(資料:茨木市人口ビジョン)

2 平成 27 年度進捗状況管理結果

総合戦略の 22 の施策の方向性における、進捗状況は下表のとおりです。なお、進捗状況における A~D の意味は次のとおりです。

【進捗状況】

- A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している。
- B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している。
- C 基本目標の実現に向け、施策の方向性の進行にやや遅れが生じている。
- D 基本目標の実現に向け、施策の方向性の進行に大幅な遅れが生じている。

基本目標（総合戦略）	施策の方向性の進捗状況				施策の方向性の数
	A	B	C	D	
1 若い世代に選ばれるまち	1	2	0	0	3
2 出産・子育てを応援するまち	0	3	0	0	3
3 高齢者がいきいき活躍できるまち	1	2	0	0	3
4 魅力と活力あふれるまち	4	3	0	0	7
5 個性・資源をいかした北部地域の活性化	1	2	0	0	3
6 安全安心にいつまでも暮らせるまち	1	2	0	0	3

3 総合進捗状況管理シートの見方

総合戦略進捗状況管理シートの構成と見方は次のとおりです。

平成27年度総合戦略進捗状況					
総合戦略進捗状況管理シート（基本編）					
1	基本目標	1	総合戦略の各基本目標に設定している、施策パッケージの施策の方向性ごとに、進捗状況管理シートを作成しています。		
2	施策の方向性	1-1	各施策の方向性に位置づけられる主な取組を記載しています。		
3	主な取組	1-1-1	大学生の創出を阻み留める取組		
		1-1-2			
		1-1-3			
		1-1-4	就労支援（インターンシップ）		
4	KPI（重要業績評価指標）	KPI（重要業績評価指標）		基準	H27
					目標
		1-1-a	奨学金利子補給が卒業生に及ぶ（住み続けられる）		H31
		1-1-b	就労支援（インターンシップ）		
5	H27の取組の進捗状況	<p>各方向性における評価と平成27年度に行った主な取組の成果と課題を記載しています。</p> <p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している C 基本目標の実現に向け、施策の方向性の進行にやや遅れが生じている D 基本目標の実現に向け、施策の方向性の進行に大幅な遅れが生じている 			
6	今後の方向性	各施策の方向性における今後の方向性を記載しています。			
7	外部有識者からの意見	<p>各施策の方向性ごとに、外部有識者からの意見を記載しています。</p> <p>・創業支援に力を入れるなら、大学のビジネスプランコンテストに参加するなど、市の創業支援事業をもっとPRをすれば、一層の広がりが出てくるのではないかと考えている。</p> <p>・就労支援フェアに出ていない企業についても、知ってもらえる機会を考えてみてはどうか。</p> <p>・起業に興味がある学生は多いが、一方で、在学中に融資を受けるリスクを恐るため、起業することは考えていない。</p> <p>・茨木市では、女性起業家支援に取り組んでいるので、女性起業家支援に取り組む。</p> <p>・西宮市では、就労支援フェアを実施している。参考にしてみようか。</p> <p>・学生がどれだけ市内企業に就職しているかをKPIにしてみるといいかもしれない。</p>			

基本目標 1

若い世代に選ばれるまち

総合戦略進捗状況管理シート

1	基本目標	1	若い世代に選ばれるまち						
2	施策の方向性	1-1	就職を機に転出する世代を引き留める						
3	主な取組	1-1-1	大学生の転出を引き留める取組						
		1-1-2	新規開業者の創業促進と成長支援						
		1-1-3	産学連携に取り組みやすい環境づくり						
		1-1-4	就労支援フェア等の開催						
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準		H27	目標		
		1-1-a	奨学金利子補給が茨木市に住む(住み続ける)インセンティブになった人		0人	未実施	125人	250人	H31 (累計)
		1-1-b	就労支援フェアの来場者数		384人	H26	418人	440人	H31
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している						
			<p>大学生の転出を引き止める取組として行った「奨学金利子補給事業」について、約8割が本市に住み続けるインセンティブになると回答し、約9割の利用者がこのまま茨木市に住み続けたいと答えていることから、一定の成果が出ていると考えられる。</p> <p>また、新規学卒者及び子育て世代向け就労支援フェアを新たに実施し、本市における就労の機会を創出した。</p> <p>一方、学生へのヒアリングの結果、起業・創業への関心が高い学生が多いことがわかったが、本市には、学生の起業・創業を後押しする実効性のある創業支援メニューの充実が必要である。</p>						
6	今後の 方向性	<p>奨学金利子補給事業は、より多くの若者に活用してもらうため、効果的な周知方法を検討する。</p> <p>また、創業支援については、大学生も活用できるよう補助金の要綱を改正するとともに、女性向けの起業・創業セミナーを開催するなど、さまざまな主体の市内での創業促進を図る。</p>							
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・創業支援に力を入れるなら、大学のビジネスプランコンテストに参加するなど、市の創業支援事業をもっとPRをすれば、一層の広がりが出てくるのではないかと。 ・就労支援フェアに出ていない企業についても、知ってもらう機会を考えてみてはどうか。 ・起業に興味がある学生は多いが、一方で、在学中に融資を受けるリスクを負ってまで、起業することは考えていない。在学中は、創業塾等で意識向上を図ったり起業体験をする、といった取組がマッチしているのではないかと。 ・茨木市では、女性の起業希望(小売店)が多い。生活密着型のアイデアを持っている人はたくさんいるので、女性向けの起業セミナーを展開するのは、良い方向性だと考える。 ・西宮市では、NPO法人が商工会議所、大学コンソーシアムと連携して、就職説明会や市内企業見学ツアーなどを実施している。参考にしてはどうか。 ・学生がどれだけ市内企業に就職してるかをKPIにしてみるといいかもしれない。 							

総合戦略進捗状況管理シート									
1	基本目標	1	若い世代に選ばれるまち						
2	施策の方向性	1-2	子育て・ファミリー層の居住地選択における優位性をいかし、さらに伸ばす						
3	主な取組	1-2-1	保幼小中連携の推進						
		1-2-2	市立幼稚園の子育て支援、保育所の地域開放事業の推進						
		1-2-3	学力・体力向上3ヵ年計画「ジャンプアッププラン28」の推進						
		1-2-4	ICTを活用した教育環境の充実						
		1-2-5	子どもの居場所の確保						
		1-2-6	児童・生徒の安全対策						
		1-2-7	地域の安全確保						
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準		H27	目標		
		1-2-a	地域子育て支援拠点（地域子育て支援センター、つどいの広場）実施箇所・受入可能人数	127,869人	H27	138,446人	169,185人	H31	
				20ヵ所	H27	21ヵ所	27ヵ所	H31	
		1-2-b	全国学力・学習状況調査（小学校）国語・算数の平均正答率	1.043	H26—H27の平均	1.032	上昇		H31
				ゆめ力 14.16	H26—H27の平均	14.11	ゆめ力	上昇	H31
				自分力 14.36	H26—H27の平均	14.23	自分力	上昇	H31
				つながり力 13.71	H26—H27の平均	13.76	つながり力	上昇	H31
				学び力 12.52	H26—H27の平均	12.50	学び力	上昇	H31
		5	H27の主な取組の成果と課題	進捗状況 B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している					
				<p>地域子育て支援拠点数は順調に推移しているが、拠点利用者については昨年度と同様に、139,000人程度となっており、その主な要因としては、各地域における就学前児童数の年齢層のバラつきやこれまで利用されていた方が、保育所等への入所が決定するなどにより、拠点を利用しなくなったことなどが考えられる。一方、保育所・園舎等を地域に開放し、在宅子育て家庭や地域住民等との相互交流を深めるとともに、在宅子育て家庭が身近な場所で気軽に相談できる機会を提供した。</p> <p>学力・学習状況調査における平均正答率については、平成27年度は全国平均を上回っているものの、基準より若干低下した。その理由としては全国各地で学力向上の取組みが進められており、全国的に上位・下位とも全国平均（＝1）に近づいている流れの中で高止まりしているためだと考えている。また、4つの力についても同様であり、引き続き、「知・徳・体」の調和のとれた子どもの育成をめざす計画である「ジャンプアッププラン28」に基づき取組を進めている。</p>					
6	今後の方向性	<p>地域子育て支援拠点は、平成28年度に1ヵ所開設予定であり、地域に根ざした子育て支援を展開したいと考えている。また、地域子育て支援拠点のモデル保育所として、郡保育所と春日保育所に地域支援を担う看護師及び保育士をそれぞれ1人配置し、在宅子育て家庭が身近な場所で気軽に相談や交流ができる環境の充実及びその周知に努める。</p> <p>教育については、保幼小中連携教育を推進するため、小・中学校教員の異校種間交流による授業、保幼小中合同授業研究会など、ブロックの保幼小中が連携することでスムーズな接続に努めるとともに、全ブロックで保幼小中連携カリキュラムを作成する。また、これまでの全国学力・学習状況調査の結果を分析するとともに、小中学校及び保護者向けにアンケートを実施し、新たな学力・体力向上に関する計画の策定に向けた取組を進めるほか、情報処理室のICT機器を活用した教職員研修を実施するなど、授業等への活用を促進する。</p>							
7	外部有識者からの意見	<p>・子どもの教育について、進学時の情報共有、継続性の確保は大きな課題である。ぶつ切りにならないよう継続性を持った支援を行う保幼小中の連携は、とても良い取り組みだと考える。また、情報共有については、小学校から中学校に入るときだけではなく、生徒のその後の様子をフォローし共有できるようにすれば、さらに良い取組になると考える。</p>							

総合戦略進捗状況管理シート

総合戦略進捗状況管理シート								
1	基本目標	1	若い世代に選ばれるまち					
2	施策の方向性	1-3	大学生が将来、茨木市に帰ってくるような種まきとしての取組					
3	主な取組	1-3-1	地域・大学の連携支援					
		1-3-2	産学連携スタートアップ事業の促進					
		1-3-3	大学の人材と地域課題をマッチングさせる仕組み・場の創出					
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準		H27	目標	
		1-3-a	提案公募型連携事業数 (学生)	0件	未実施	-	3件	H31
		1-3-b	地域・社会活動に参加する学生の割合	7.9%	H27	-	10.0%	H31
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している					
			<p>目に見える実績はまだないが、大学との連携を強化するため、協定を締結している大学と新たに協議の場を設け、情報共有を図っているほか、平成27年度は、立命館大学の開学と合わせて、「いばらき×立命館DAY」と題して、地域、学生、事業者などが、「出会う、つながる、つくりだす」をテーマに地域連携型イベントを開催するなど、地域連携に資する取組を進めている。</p> <p>また、産学連携を促すため、産学連携スタートアップ支援事業の対象を広げた結果、申請件数が前年度から倍増しており、「大学生が将来、茨木市に帰ってくるような種まきとしての取組」としては、おおむね順調に進行していると判断している。</p>					
6	今後の 方向性	<p>新たな連携の可能性を探すため、引き続き、各大学と協議を行う。</p> <p>また、地域と大学の自発的・自主的な連携取組を支援するため、提案公募型連携事業に新たなテーマを設けるとともに、地域、大学、行政の出会い、交流の促進を図るため、「連携マッチングボード」を市ホームページ上に構築し、情報の一元化、見える化を図り、学生の地域活動や社会活動の促進に努める。</p>						
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと祭りなど、地域活動を担っている人が高齢化しており、どう続けていくかが問題になっている。地域コミュニティに学生が入ってもらえる仕組みづくりも検討してみてもどうか。 ・提案公募の方式により、自主性のある学生を応援する事業を進めることは良い取り組みだと考える。 ・学生の地域活動を活性化するには、大学側にも熱心になってもらわないと上手くいかない。連携プラットフォームを構築、活用するなど、大学側と密に連携をとっていく必要がある。 						

基本目標 2

出産・子育てを応援するまち

総合戦略進捗状況管理シート

1	基本目標	2	出産・子育てを応援するまち					
2	施策の方向性	2-1	心理的・経済的に安心して出産、子育てできる環境の整備					
3	主な取組	2-1-1	母子保健事業の推進	2-1-8	各種支援制度の充実			
		2-1-2	就学前教育・保育の充実	2-1-9	ひとり親家庭への支援の推進			
		2-1-3	子どもの健康の保持、増進	2-1-10	就学・修学に伴う支援			
		2-1-4	地域における子育て支援	2-1-11	子ども・若者自立支援の推進			
		2-1-5	障害のある子どもをもつ家庭への支援の充実	2-1-12	学習・生活支援の推進			
		2-1-6	子どもの居場所の提供					
		2-1-7	学童保育の充実					
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準	H27	目標		
		2-1-a	ファミリー・サポート・センター活動人数	6,163人 日	H27見込	4,984人日	6,310人 日	H31
		2-1-b	利用者支援事業実施	0カ所	未実施	1カ所	5カ所	H31 (累計)
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している					
			<p>子育てしやすい地域環境を作ることを目的に、会員同士が助け合う組織である「ファミリー・サポート・センター」の会員登録方法を見直すなど、会員増加に努めたが、学童保育室の利用時間延長などの要因から、小学生の送迎の依頼件数が減少し、全体的に利用件数が減少している。</p> <p>また、子育て家庭の個別ニーズに応じた情報提供を行うため、子育て支援総合センターにおいて、子育て総合案内（利用者支援事業）を開始した。なお、相談者は、約100人で、適切な対応に勤めており、出産・子育てを応援するまちに資する取組を進めている。</p> <p>子ども・若者自立支援については、民間支援機関に茨木市子ども・若者自立支援センター業務を委託し、ひきこもり等の当事者とその保護者の相談支援や、当事者の訪問・居場所・同行支援を実施した。</p>					
6	今後の 方向性	<p>ファミリー・サポート・センターの運営にあたっては、距離的に来所が困難な家庭向けに、山手台においてファミリーサポート出張説明登録会の開催を予定しているほか、また、会員登録後すぐに援助活動が行えるよう、活動前の必須研修である安全研修の実施方法を見直すなど活動人数の増加をめざした取組を進める。</p> <p>子育て総合案内は、子育て支援施設やサービスを適切に選択し、円滑に利用できるように利用者支援を行う特定型から、利用者支援に加え地域連携までを行う基本型に切り替える。また、子育て支援に関する活動を実施されている団体等のネットワークを活かした連携に取り組むとともに、地域で必要とされる支援の把握に努め、必要に応じて、その創設を地域に働きかける。</p>						
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子どもがいる家庭が転入してきた場合、周囲に知り合いがおらず、さまざまな面で不安を抱くことが多い。「2 方向性」にある「心理的」な面でのサポートは、非常に重要である。 ・幼稚園や保育所に行っていない子を持つ保護者は、外部とのつながりが少ない。支援や制度があっても、利用できることを知らないことも多く、そういった人に対し、どのようにアプローチしていくか、十分に検討する必要がある。 ・子どもに関する相談窓口が増えるのはいいが、担当部署がばらばらで、市民にとってはややこしく感じることもあるのではないかと。「子ども」という言葉の定義も、施策ごとに異なっており、整理が必要だと感じる。 						

総合戦略進捗状況管理シート

総合戦略進捗状況管理シート								
1	基本目標	2	出産・子育てを応援するまち					
2	施策の方向性	2-2	仕事と子育てを両立することのできる子育て支援					
3	主な取組	2-2-1	特別保育の充実					
		2-2-2	私立保育所等の保育環境の充実					
		2-2-3	学童保育の充実					
		2-2-4	働き続けられる職場づくりの推進					
		2-2-5	再就職への支援					
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準		H27 (H28.4)	目標	
		2-2-a	待機児童数(認定こども園、保育所、小規模保育)	186人	H27	147人	0人	H31
		2-2-b	学童保育の待機児童数	25人	H27	21人	0人	H31
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している					
			<p>認定こども園1園の増築(定員30人増)と小規模保育事業所4か所(定員74人増)の開所により、待機児童数(認定こども園、保育所、小規模保育)は減少した。</p> <p>また、学童保育については、H27年度の入室に向けた申請者数と比較し、180名の入室申請者が増加(平成28年度の入室に向けた申請者数)したものの、H27年度において、8か所の学童保育室の設備改修を実施し、定員増を図った結果、待機児童数は微減した。</p> <p>このほか、保護者が仕事や病気などで一時的に家庭での養育が困難となった場合などに利用できる「子育て短期支援事業」の受け入れ先を拡充し、乳児からの受け入れを可能とした。</p> <p>また、雇用促進事業である「正規雇用奨励金」については、平成27年度に制度の見直しを行ったため、対象となる事業所は減少したが、対象者の年齢を拡充したことにより、若年者の安定雇用に繋がった。</p>					
6	今後の 方向性	<p>待機児童数を受け入れる環境を整えるため、引き続き、幼保連携型認定こども園の新設に向けた検討を行うとともに、私立保育所等の建替えに対する補助を行い、定員の増を図るなど、積極的な待機児童の解消に努める。</p> <p>学童保育については、平成28年度も8学童保育室の設備改修を実施する予定であり、今後も待機児童の解消を図る。</p> <p>子育て短期支援事業において、トワイライトステイ利用時の施設までの送りやショートステイ利用時の学校への送迎実施を検討する。</p> <p>就職支援については、仕事なんでも相談等を実施するとともに、女性向けの起業・創業セミナーを創設する。</p>						
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 親が遠方にいる世帯にとって、仕事と子育ての両立には、保育所と病児保育の取組が重要となる。 子どもが高校生ぐらいになると、親は働けるはずだが、その時点でいい再就職先がないことが問題となっている。そういったアンマッチの生じている層への就職支援も検討してはどうか。 待機児童があまり減っていても、待機児童保育室などで対応しているのであれば、それも含めた評価としていいのではないかと。 						

総合戦略進捗状況管理シート

1	基本目標	2	出産・子育てを応援するまち				
2	施策の方向性	2-3	次代の親となる若者が子どもをもち、育てるための意識啓発				
3	主な取組	2-3-1	子育て・子育て支援等の意識啓発				
		2-3-2	「いばらき結婚・子育て応援団」の結成				
		2-3-3	次世代育成支援に関する意識啓発				
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準	H27	目標	
		2-3-a	「人生のパートナーを得たい」「子どもをもち、育てたい」と思える率	未実施	70%	上昇	H31
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している				
			<p>子育て中の親子と高校生が子育てをテーマにふれあう「ふれあいまなび事業」を、市内公立高校5校で開催した。子育て中の親が、現在実践している自分の子育ての経験を、次代の親となる高校生に語ることで、達成感を持つと同時に、高校生が自分の育ちを振り返るきっかけにもなり、将来の子育てへの関心にもつながった。また、「赤ちゃん先生」を講師として、中学生が0～3歳の赤ちゃんと母親と実際にふれあう機会を設けた。</p> <p>そのほかに、子供を持つことの喜びや子育ての楽しさを知ってもらい、子どもを生み育てたいという気持ちを高めるため、「「ふたりの出会い」「子育ていいところらべ」エピソード集」を作成した。</p>				
6	今後の 方向性	ふれあいまなび事業は、高校の授業の一環として継続して行うとともに、未実施の公立高校や、中学校への当該事業の呼びかけを行う。					
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚したい、出産したいという人が希望をかなえることができるような環境を整える必要がある。 ・赤ちゃん先生の事業もいいが、妊婦さんとふれあう機会があれば、自分と違う人に対する理解を深めることができるのではないかと。 					

基本目標 3

高齢者がいきいき活躍できるまち

総合戦略進捗状況管理シート

総合戦略進捗状況管理シート							
1	基本目標	3	高齢者がいきいき活躍できるまち				
2	施策の方向性	3-1	高齢者の居場所と出番の創出				
3	主な取組	3-1-1	高齢者のいきがい推進				
		3-1-2	高齢者関係団体の育成・支援				
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準	H27	目標	
		3-1-a	多世代交流センターの整備	0カ所 未実施	5カ所	5カ所	H31 (累計)
		3-1-b	シニアいきいき活動ポイント事業受入施設数	57カ所 H27	59カ所	100カ所	H31 (累計)
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している				
			<p>老人福祉センターを再編し、高齢者と子ども世代など、多世代が交流することのできる「多世代交流センター」を5カ所整備した。各センターでは「ふれあい体験学習」を実施しており、小学生が高齢者から囲碁の基本を学ぶなど、高齢者と子どもが世代間交流する機会が生まれるとともに、高齢者の出番を創出している。</p> <p>また、高齢者活動支援センターシニアプラザいばらきに、シニアいきいき活動ポイント事業事務局を設置し、高齢者の社会参加として、様々な高齢者施設での活動ができるよう、必要な支援を行った。(出前講座や出張受付など)</p>				
6	今後の 方向性	<p>多世代交流センターについては、利用者の要望を取り入れた事業展開を図っていく。</p> <p>また、シニアいきいき活動ポイント事業については、平成28年度は、登録者数500人、受入施設数70カ所を目指す。</p>					
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターを多世代交流センターに再編したということで、一定の効果はあったといえる。 ・多世代交流センターの指定管理者は、老人福祉センターの指定管理をしていたところが多いのではないかと。そのため、子ども向けの事業ができるのかどうか課題になってくるかもしれない。 ・今後、子どもや孫のいない高齢者が増えてくることを考慮すると、相互理解のためにも世代間交流はさらに重要となる。高齢者に赤ちゃん先生の事業を実施するなど、子どもと触れ合う機会を提供することも必要かもしれない。 ・高齢者のやりたいこととマッチするかわからないが、シニアいきいき活動ポイント事業の受け入れ施設を、子どもや障害者関係の施設まで広げてもいいのではないかと。 					

総合戦略進捗状況管理シート

1	基本目標	3	高齢者がいきいき活躍できるまち						
2	施策の方向性	3-2	高齢者の地域・経済での活躍						
3	主な取組	3-2-1	高齢者を対象とした起業・創業の支援						
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)			基準		H27	目標	
		3-2-a	高齢者の起業・創業件数 (いきがいワーカーズ)	0件	未実施	1件	8件	H31 (累計)	
		3-2-b	シルバー人材センターや老人クラブの登録人数	9,143人	H27	9,056人	増加	H31	
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している						
			<p>高齢者活動支援センターに、いきがいワーカーズ事務局(※)及び市老人クラブ連合会を設置した。いきがいワーカーズ事務局では、事業立ち上げ相談日を設け、相談延べ件数75件、1団体の組織化及び事業立ち上げ補助を行った。さらに、別の1団体はNPO法人の認証を得て、平成28年度中に事業立ち上げを行う予定である。また、市老人クラブ連合会では、老人クラブ活動の活性化推進事業を行うとともに、会員加入の促進のために会員カードを発行し、優待店数を100店舗まで増やした。その結果、登録人数の増加には至らなかったものの、これまで減少傾向にあった会員数の減少幅を抑えることが出来た。シルバー人材センターについては、会員加入相談会を開催し、相談件数42件、会員入会12件の成果が出た。</p> <p>※いきがいワーカーズは、高齢者で構成された団体に対して、高齢者等を地域で支える事業を開始するための事業企画づくりや立ち上げ資金等を支援する事業</p>						
6	今後の 方向性	<p>いきがいワーカーズ事務局において、引き続き高齢者の起業・創業の支援を行い、平成28年度は合計3件の事業立ち上げを目指す。</p> <p>また、高齢者活動支援センターにおいて、介護予防・日常生活支援総合事業の実施に合わせて、平成28年度から訪問型サービスA(※)の事業所として、シルバー会員を活用した家事援助等のサービスを開始する。</p> <p>※訪問型サービスAとは、介護予防・日常生活支援総合事業の訪問介護相当サービスの基準の一部を緩和した基準により指定された事業所が提供する訪問型サービスをいう。</p>							
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「シルバー」や「老人クラブ」といった言葉以外に、高齢者がやる気の出るような呼び方を考えてみてはどうか。 ・老人クラブの会員カードを持っていると優待を受けられることができるとのことだが、本当にインセンティブになっているのか、検証してはどうか。 							

総合戦略進捗状況管理シート								
1	基本目標	3	高齢者がいきいき活躍できるまち					
2	施策の方向性	3-3	地域で自立した生活を元気に送り返ける					
3	主な取組	3-3-1	健康寿命の延伸に向けた取組					
		3-3-2	地域で自立した生活をおくり続けるための取組の推進					
		3-3-3	バリアフリー化等の推進					
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準		H27	目標	
		3-3-a	特定健診受診率	29.6%	H26	30.5%	60.0%	H31
		3-3-b	特定保健指導実施率	40.3%	H26	52.5%	60.0%	H31
		3-3-c	介護保険の認定率	16.9%	H26	17.01%	21.3%	H31
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況 B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している						
		<p>地域福祉ネットワークの構築により、地域での見守り体制が整備された。また、緊急時の対応に備えるために、ひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯対象に一斉調査を実施し、実態をよりの確に把握した。</p> <p>特定健康診査受診率については、目標値に達していないため、「データヘルス計画」(※)を策定するとともに、H27年度から人間ドック助成を開始し、受診率向上に努めた。</p> <p>旅客施設を中心とする地区や高齢者、障害者等が利用する施設が集まった地区のバリアフリー化等を推進するため、バリアフリー基本構想及び特定事業計画を策定した。</p> <p>※データヘルス計画とは、全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータの分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画</p>						
6	今後の 方向性	<p>平成28年度から介護予防・日常生活支援総合事業を開始し、段階的に街かどデイハウスを要支援者の受入れ可能な共生型の通所型サービスBへ移行する。さらに、福祉関係団体や住民組織、各種民間事業者等が参画した高齢者生活支援体制整備に関する協議体を立ち上げ、生活支援サービスの豊富化を目指す。</p> <p>特定健康診査受診率の向上を目指すため、「人間ドック助成事業」を推進する。また、医療費適正化に向けた「ヘルスアップいばらき推進事業」推進のため、健診結果・医療費等データ分析を実施し、平成27年度に策定した「データヘルス計画」により、計画に基づく効果的な保健事業を実施する。また、バリアフリー基本構想及び特定事業計画に基づき、重点整備地区の道路、歩道、施設などのバリアフリー化に取り組む。</p>						
7	外部有識者 からの意見	特になし						

基本目標 4

魅力と活力あふれるまち

総合戦略進捗状況管理シート

1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち					
2	施策の方向性	4-1	人口動態を支える魅力と機能を備えた拠点の形成					
3	主な取組	4-1-1	都市拠点（中心市街地）の魅力と機能の充実					
		4-1-2	観光あるき事業の推進					
		4-1-3	シビックセンター環状道路の一方通行化による賑わいの創出と回遊性の高い道路空間の形成					
		4-1-4	地域拠点の魅力と機能の充実					
4	KPI （重要業績 評価指標）	KPI（重要業績評価指標）		基準	H27	目標		
		4-1-a	市内駅乗降客数（年間）	278,340人/日	H25	-	増加	H31
5	H27の主な取組の成果と課題	<p>進捗状況 B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している</p> <p>中心市街地の活性化を図るため、「茨木市中心市街地活性化基本計画」の策定に向けた協議会を設立し、将来像や実施事業の検討を行った。JR茨木駅および阪急茨木市駅西口駅前の再整備については、関係者等と協議・調整を行うとともに、バリアフリー化などの暫定整備を実施した。また、（仮称）JR総持寺駅については、平成30年春の駅開業に向け、周辺道路整備についても着手する中、開発事業者によるマンション第2期棟が完成し、新たなまちの形成が図られている。</p> <p>次代を担う若手芸術家を発掘し、発表の場を提供する「HUB-IBARAKI ART COMPETITION」と「まちなかアートツアー」を連携して行い、市民に市内に設置した彫刻や絵画等の芸術作品を身近に感じてもらう機会を提供した。</p>						
6	今後の方向性	<p>中心市街地での実施事業等を引き続き検討するとともに、立地適正化計画の策定に向け、都市機能誘導区域および居住誘導区域の検討を行う。</p> <p>JR茨木駅及び阪急茨木市駅西口駅前の再整備について、引き続き関係者等との合意形成を図り、事業の推進に努める。</p> <p>（仮称）JR総持寺駅については、引き続き駅前広場や周辺道路の整備推進を図り、交通ネットワークの強化とともに地域の魅力向上に努める。</p> <p>「阪急京都沿線観光あるき」については、新たな観光情報の提供と参加者数の増加を図るため、コースの見直しを行う。</p> <p>「HUB-IBARAKI ART COMPETITION」若手芸術家育成事業は、選考作品を公共施設に長期間展示するという全国的にも珍しい企画で、毎年見直しを行い実施してきたが、実行委員会と協議を行い、リニューアルも含めさらに見直し、検討をすすめる。</p>						
7	外部有識者からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前に若者が過ごす場所がないのが、茨木の一つの課題であると考える。 ・茨木は住みやすく魅力あるまちなので、優れた教育環境など、よいところをもっと伸ばしていけばいい。 ・茨音など元気な人のネットワークが広がっているのは実感しているが、商店街などの商業施設とはまだ溝があるように思える。まちの賑わい連絡会等を活用して、もっと中心市街地が一体となった取り組みをできればいいのではないか。 ・エキスポシティからバスでJR茨木駅に戻る人の流れを、どうやって駅の東側にも誘導するのかということも課題である。 						

総合戦略進捗状況管理シート

1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち						
2	施策の方向性	4-2	大学・研究機関が多く立地しているというポテンシャルを最大限に活用						
3	主な取組	4-2-1	地域・大学の連携支援						
		4-2-2	産学連携に取り組みやすい環境づくり						
		4-2-3	新規開業者の創業促進と成長支援						
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準		H27		目標	
		4-2-a	産学連携スタートアップ支援事業を活用した事業（製品・技術用）の実用化数	1件	H27	1件	7件	H31 (累計)	
		4-2-b	創業支援ネットワークによる創業実現者数	57人	H26	73人	95人	H32	
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している						
			産学連携スタートアップ支援事業について、補助対象となる連携大学の範囲を市内大学から全大学に拡充したことにより、申請件数の増加につながったとともに、実用化件数が1件となった。また、市・商工会議所・金融機関をはじめとした各種支援制度の周知及び、創業者に対する経営指導等のアドバイスに努めた結果、創業実現者が増加した。						
6	今後の 方向性	創業支援については、引き続き「創業支援ネットワーク」を活用し、様々な面から創業希望者を支援するとともに、起業・創業後のフォローアップ体制を構築し、切れ目のない支援に取り組む。また、企業と大学との連携機会を創出するため、両者が交流できる場を設け、より産学連携に取り組みやすい環境を整える。							
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「起業・創業のフォローアップ体制」については、起業した人に「いつでも相談できますよ」と、PRをすることが重要である。 ・KPIの「創業支援ネットワークによる創業実現者数」については、数が増えればいいというものではない。数年後も定着しているかが重要で、その後についても追いかける必要があるのではないかと。 ・何でもかんでも創業させるのではなく、しっかり茨木に根付いてくれる人を見極めて支援してほしい。ソーシャルビジネスの支援も行ってはどうか。 ・「起業・創業後のフォローアップ体制」については、創業者のネットワークを作るなど、創業者同士で情報交換のような側方支援でいいのではないかと。 ・女性の創業支援も必要だと考える。出産を契機に退職することが多く、その後自分のやりたいことで起業する人が多い。 							

総合戦略進捗状況管理シート

総合戦略進捗状況管理シート								
1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち					
2	施策の方向性	4-3	彩都地域における産業集積の促進					
3	主な取組	4-3-1	彩都等における成長産業等の集積促進や新たなまちづくり					
		4-3-2	国土軸へのアクセスなど地域特性をいかした企業等の誘致促進					
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準		H27	目標	
		4-3-a	バイオインキュベーション施設入居企業数	30社	H27	32社	維持	H31
		4-3-b	彩都施設人口調査 (雇用者数)	2,300人	H27	-	増加	H31
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している					
			特区制度を活用した支援施策により、彩都西部地区に4社の立地が、中部地区には、物流関連の企業等の進出が決定し、企業集積が進んでいる。 また、バイオインキュベーション施設の入居企業に対する賃料補助制度の活用により、入居企業が増加した。					
6	今後の 方向性	彩都中部地区では、市に換地される土地への企業誘致を行うとともに、東部地区では、成長産業等の企業集積を目指して、一部エリアでの事業の推進と残りエリアの事業化に取り組む。						
7	外部有識者 からの意見	・9月にはプロロジスが彩都に来るなど、彩都の取組については順調に進んでいると考える。						

総合戦略進捗状況管理シート

1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち					
2	施策の方向性	4-4	空き家や公共施設更新に伴う取組					
3	主な取組	4-4-1	空き家対策、空き店舗対策の推進					
		4-4-2	公共施設等の老朽化に対する適切な対応					
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準		H27	目標	
		4-4-a	空き店舗利活用件数	15件	H26	延べ32件	延べ75件	H31
		4-4-b	公共施設等の長寿命化対策費	9億3千万円	H27予算	13億2千万円	11億円確保	各年
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している					
			市広報誌・HPで創業に関する支援制度等について周知を図るとともに、中小企業経営アドバイザーによる相談事業の実施等により、空き店舗を利活用した創業者数が増加している。一方、空き店舗を活用した市内農産物のアンテナショップの常設に関しては、地場産農産物の安定供給や販売員の人件費などの課題があり、早期の実現は難しい状況である。 空き家対策については、「空き家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき、「(仮称)茨木市空き家等対策計画」の策定に向け、空き家の実態調査や庁内検討組織による利活用等の検討を行った。 また、公共施設については、公共施設等マネジメントガイドラインに基づき、各公共施設等の点検を実施し、平成28年度予算編成につなげている。					
6	今後の 方向性	平成28年度は、専門的な見地から意見を伺うため「茨木市空き家等対策協議会」を設置し、空き家の実態調査結果や庁内検討組織による検討を踏まえ「(仮称)茨木市空き家等対策計画」を策定する。 また、公共施設の老朽化に対応するため、国が要請する公共施設等総合管理計画の策定に向けて取り組む。						
7	外部有識者 からの意見	・例えば、山手台の空き家と市中心部の空き家は性質が異なるため、空き家はタイプに分けて考えなければならない。特に、街中の空き家は、不動産業者等と連携しながら進めることが重要である。						

総合戦略進捗状況管理シート

総合戦略進捗状況管理シート								
1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち					
2	施策の方向性	4-5	公共交通をはじめとした交通環境の整備					
3	主な取組	4-5-1	茨木市総合交通戦略の推進					
		4-5-2	都市計画道路整備、道路新設・改良の推進					
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)			基準		H27	目標
		4-5-a	バス利用者数	24,700人/ 日	H24	-	維持	H31
		4-5-b	市内の移動に対する満足度	49.8%	H24	-	増加	H31
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している					
			<p>公共施設間等の移動における利便性向上のため、他市の事例調査と市内の公共施設利用時の移動に関するアンケート調査を実施した。今後は高齢化が進展することを踏まえ、市民の移動の利便性向上施策の検討が必要である。</p> <p>また、茨木市自転車利用環境整備計画に位置付けられている自転車ネットワーク優先整備対象路線において、自転車レーンの整備を行った。</p> <p>市の中心部では自転車と歩行者がともに多く、自転車通行可能な歩道において混在する状況となっているため、安心・安全で快適な歩行空間や自転車利用環境の整備が求められている。</p>					
6	今後の 方向性	<p>引き続き総合交通戦略で策定した短・中期施策の実施及び関係事業者と共に施策の進行管理を行う。今後高齢化が進展することから、自動車に過度に依存しなくても安全で快適に移動できる交通環境を構築し、住みやすい、移動しやすいと実感できる交通体系作りを目指すため、公共交通の利便性向上に向けた諸施策の検討を行う。また、ICカードの利用促進の取り組みを行うバス事業者へ補助金を支出することで、公共交通機関相互の乗継円滑化を促進するとともに、利便性向上と環境負荷軽減等を図る。</p>						
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 交通環境の整備は、土地利用の問題でもある。バスであれば、誰に乗ってもらうのかを考えながら、施設の配置を考える必要がある。 民間事業者（NAVITIME等）とタイアップしたシステム導入などについても検討してみてもどうか。 						

総合戦略進捗状況管理シート

総合戦略進捗状況管理シート							
1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち				
2	施策の方向性	4-6	地域特性をいかした産業施策と雇用促進				
3	主な取組	4-6-1	幹線道路沿道の土地利用の推進				
		4-6-2	商工業振興補助、小売店舗改築（改装）補助事業				
		4-6-3	産業活性化や高付加価値化等につながる取組の促進				
		4-6-4	企業立地支援				
		4-6-5	市内事業者の事業活動への支援の充実				
		4-6-6	雇用の促進				
4	KPI （重要業績 評価指標）	KPI（重要業績評価指標）		基準	H27	目標	
		4-6-a	産業活性化プロジェクト促進事業を活用した高付加価値な製品・商品の開発件数	2件	H27見込	2件	5件 H32 （累計）
		4-6-b	研究施設、生産施設、物流施設等の新規立地件数	0件	未実施	-	6件 H31 （累計）
		4-6-c	正規雇用促進奨励金により正規雇用につながった人数	20人	H25	18人	維持 H31
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している				
			<p>商店街等が実施するイベント事業を引き続き支援するため、補助制度の時限措置を見直した。市内の商店や企業の発展を支援するため、経営アドバイザーが企業等を巡回し、助言等を行う事業では、本市や国の支援施策の周知を積極的に図ることで、利用件数が増加した。</p> <p>雇用促進の事業である「正規雇用奨励金」については、平成27年度に制度見直しを行ったため、対象となる事業所は減少したが、対象者の年齢を拡充したことにより、若年者の安定雇用につながった。</p> <p>一方、現下の雇用失業情勢でも、就職が厳しい就職困難者等の様々な就労阻害要因の解消を図るため、個々の相談に応じた就労支援を行う必要がある。</p>				
6	今後の 方向性	<p>中小企業者を対象に、海外展開に必要な知識を得るための講座費用の一部助成やセミナーの実施を検討する。また、商店街の集客力・魅力向上に向けた取組を検討するため、商店街へのヒアリングを実施するとともに、商店街活性化に向けた取組を支援する。</p> <p>就労支援については、仕事なんでも相談、合同就職面接会等を実施し、就労の促進を図るとともに、女性を対象とする創業支援を実施する。</p>					
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 女性の起業・創業については、実際に金融機関に対し、小規模の飲食関係、美容関係における相談があることから、一定の需要はあり、進めるべき取組であると考えている。 土地区画整理事業は、基本的に地元地権者との調整の中で方向性を決めたらいいと考えているが、住宅地への転換については、需要についてしっかり予測して進めるべきであると考えている。 					

総合戦略進捗状況管理シート

総合戦略進捗状況管理シート										
1	基本目標	4	魅力と活力あふれるまち							
2	施策の方向性	4-7	魅力発信の強化							
3	主な取組	4-7-1	シティプロモーションの推進							
		4-7-2	地域魅力アップイベント創出育成							
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)			基準		H27		目標	
		4-7-a	茨木市の魅力発信が「できていない」と回答した割合		43.1%	H27	-	下降	H31	
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している							
			関係団体、有識者等への意見聴取、各種アンケートや庁内プロジェクトチームによる検討をもとに、茨木市シティプロモーション基本方針を策定した。市外在住者からのふるさと寄附金件数、新聞社等のマスメディアへの情報提供数、市ホームページのページビュー数は、昨年度実績を上回り、順調に推移している。また、地元金融機関が主催する北摂広域連携会議に参画し、広域的な観光ネットワーク化の構築を検討している。							
6	今後の 方向性	シティプロモーションの一環として、「まちのイメージ」を形成するため、本市ブランドメッセージ（ロゴ）の作成に取り組む。また、日本自動車連盟関西本部（JAF）と協定を締結し、JAFMateなどの広報媒体やSNSを通じて、本市の観光情報を発信する。ふるさと寄附金については、返礼品数を増やすとともに、姉妹都市と連携した返礼品を用意することで本市及び本市特産品等の一層の魅力発信に努めるほか、寄附金の使途指定に係るクラウドファンディングなどについて検討する。多くの市民で賑わう多彩なイベントが催されるよう、「地域魅力アップイベント創出育成事業」を改編し、引き続き民間主導イベントを支援し、観光行政の振興を図るとともに、スケールメリットを活かした観光ネットワークを構築するため、北摂関係各市との連携強化に努める。								
7	外部有識者 からの意見	・「うまいもん市」といったイベントに、名産品を出品してはどうか。市内から出した商品の中で、最も順位の高かったものに市長賞を出したり、クラウドファンディングなど活用すれば、出品者もやる気が出るのではないかと。								

基本目標 5

個性・資源をいかした北部地域の
活性化

総合戦略進捗状況管理シート

総合戦略進捗状況管理シート							
1	基本目標	5	個性・資源をいかした北部地域の活性化				
2	施策の方向性	5-1	魅力発信機能の強化				
3	主な取組	5-1-1	シティプロモーションの推進				
		5-1-2	北部地域の魅力向上の検討・取組				
		5-1-3	移住促進情報の発信				
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準	H27	目標	
		5-1-a	茨木市の魅力発信が「できていない」と回答した割合	43.1%	H27	-	下降 H31
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している				
			北部地域エリアガイドBOOK「いばきた」を北部地域の主要な施設や店舗において配布し、他施設等への立ち寄り需要を喚起するとともに、「忍頂寺スポーツ公園」で「安威川ダムカレー」を販売するための取組を支援するなど、北部地域エリア内での回遊性を高めるための取組を進めた。移住促進の取組としては、総務省が運営しているサイト「全国移住ナビ」に本市のページを作成し情報発信を行っているが、他市に比べ、情報量が少なくサイトを活用しきれていないことが課題である。				
6	今後の 方向性	北部地域の魅力を広く発信するとともに、彩都、安威川ダム、新名神高速道路などのプロジェクトが進行する中で、これらのインパクトを活用した更なる魅力づくりを進める。また「いばきた」を活用するとともに、阪急バスの「環境(エコ)定期券制度」とタイアップした取組を実施するなど、本市北部地域の魅力を発信していく。					
7	外部有識者 からの意見	・移住・定住について、地方からのツアーなどで茨木の魅力を発信し、人を呼び込む仕組みを検討してはどうか。					

総合戦略進捗状況管理シート

1	基本目標	5	個性・資源をいかした北部地域の活性化					
2	施策の方向性	5-2	交流人口獲得に向けた取り組み					
3	主な取組	5-2-1	既存施設等を活用した交流人口の獲得					
		5-2-2	自然等を活用した交流人口の獲得					
		5-2-3	交通環境の整備による交流人口の獲得					
		5-2-4	北部地域の魅力向上の検討・取組					
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準		H27	目標	
		5-2-a	里山センター利用者数	5,501人	H24-26平均	9,277人	増加	H31
		5-2-b	キリシタン遺物史料館来館者数	6,351人	H26	6,579人	増加	H31
		5-2-c	忍頂寺スポーツ公園利用者数	36,019人	H24-26平均	38,768人	増加	H31
		5-2-d	青少年野外活動センター利用者数	11,208人	H26	11,675人	増加	H31
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している					
			既存施設を活用した取組として、里山センターでは、施設のPRを目的として里山まつりを開催し、多くの来場者があったほか、バーベキューコーナーの利用期間の拡大等利用者のサービス向上を行った。キリシタン遺物史料館では、企画展を2回実施した結果、来館者数は昨年度に比べて増加した。また、竜王山荘内のレストランのメニューに安威川ダムカレーを新設するなど、北部地域の他の施設のPRを行っている。					
6	今後の 方向性	エリアガイドBOOK「いばきた」や市広報誌等を活用した魅力発信に努めるとともに、公共交通機関と連携した情報発信に取り組む。 また、千提寺菱ヶ谷遺跡を交流拠点として市民に開放するとともに、安威川ダム周辺整備の事業化に向けて取り組むほか、人口減少などの北部地域が抱える課題等を念頭に置きながら、点在する資源をつなぐ方策や様々な資源に係わる組織や人との関係を整理・検討する。						
7	外部有識者 からの意見	・里山センターで複合的なイベント、例えばバーベキュー婚活など、行ってはどうか。						

総合戦略進捗状況管理シート

1	基本目標	5	個性・資源をいかした北部地域の活性化					
2	施策の方向性	5-3	6次産業化や里山的景観活用などの取組					
3	主な取組	5-3-1	都市住民と遊休農地とのマッチングの推進					
		5-3-2	農業の6次産業化の支援					
		5-3-3	特産品やブランドづくり、アンテナショップなどの支援					
		5-3-4	北辰中学校跡地活用推進					
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準		H27	目標	
		5-3-a	農商工連携に対して意欲のある事業者のマッチング件数	0件	未実施	-	2件	H32 (累計)
		5-3-b	マッチングによる新たな商品、サービスの開発件数	0件	未実施	-	2件	H32 (累計)
		5-3-c	見山の郷の来場者数	106,000人	H26	108,000人	増加	H31
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況 B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している						
		<p>遊休農地については、農地中間管理事業を活用し、約46aにおいて4名の新たな担い手を確保した。しかし、農業の担い手の高齢化や若者の農業離れ等により担い手が不足し、将来、農地の遊休化が進むと考えられることから、持続的な農業の推進には、都市住民等に農業に興味を持ってもらう必要がある。</p> <p>北辰中学校跡地利用については、PFI事業可能性調査を実施した。</p> <p>一方で、農商工連携に意欲のある事業者とのマッチングや新たな商品開発については、未着手である。また、アンテナショップの常設に関しては、地場産野菜の安定供給や販売員の人件費などの課題があり、早期の実現は難しい状況である。</p>						
6	今後の 方向性	<p>持続的な農業の推進のため、大阪府等と連携し、市民農園利用者をはじめ市民や学生を対象とした農業体験を実施し、農家への援農や新規就農に結びつける。</p> <p>北辰中学校跡地利用については、PFI手法導入可能性調査結果を整理し、北部地域のまちづくり検討調査とともに、検討を進める。</p> <p>市内農産物のアンテナショップの開設については、事業実施に向け課題を洗い出し、出展の可能性を検討する。</p>						
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> アンテナショップに置くほど、茨木市は商品の安定供給がない。まず担い手をどうするのかを考える必要がある。 ブランド化については、作物の生産量が少ないので、加工商品で進めるしかないのではないかと。産学連携で学生がレシピを考えて料理人が作るというやり方などはいいかもかもしれない。 道の駅など、農産物販売所を作る場合、経営側で作物を買い取り販売する方式をとってしまうと、農家にとってリスクがなくなり、生産者が売れる作物をすることに他人事になってしまう。農家には「作物を売る場所を貸すだけ」と伝えておき、経営の意識を持ってもらうことが大切である。 						

基本目標 6

安全安心にいつまでも暮らせるまち

総合戦略進捗状況管理シート

総合戦略進捗状況管理シート							
1	基本目標	6	安全安心にいつまでも暮らせるまち				
2	施策の方向性	6-1	安心して子育てできるまちの推進				
3	主な取組	6-1-1	児童・生徒の安全対策				
		6-1-2	地域の安全確保				
		6-1-3	子どもの見守りと安全で安心な居場所の提供				
		6-1-4	「地域の子どもは地域で見守り、育てる」活動を行うための支援				
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準	H27	目標	
		6-1-a	通学路防犯カメラ設置・稼働台数	0台 未実施	0台	320台	H31 (累計)
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況	A 基本目標の実現に向け、施策の方向性が順調に進行している				
			児童・生徒の安全対策については、ボランティア巡視員の見守り活動により、児童・生徒の登下校中の大きな事件や事故等は発生していないが、ボランティアの確保が課題である。地域では、自治会が防犯カメラ設置補助制度を活用し、新たに35台の防犯カメラが設置された。また、自治会が管理する防犯灯を対象として、LED防犯灯に転換しようとする場合及び維持管理費用についても自治会負担軽減を図るため補助金交付を行った。				
6	今後の 方向性	通学路見守り用カメラの設置工事を進め、平成28年10月から運用を開始する。また、大阪府警本部、茨木警察署、茨木土木事務所等と連携し、地域安全センターの全小学校区設置に向け事業を推進する。 自治会におけるLED防犯灯の転換補助については、平成28年度を最終年度として実施し、維持管理費用については引き続き補助金交付を行う。 ボランティア巡視員による見守り活動や通学路の安全点検とともに、幅広い年代の地域住民による子どもを見守るネットワーク作りを推進する。					
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 主な取組の中では、「子どもの見守りと安全で安心な居場所の提供」「地域の子どもは地域で見守り、育てる活動を行うための支援」をより充実させるべき。茨木市は沿道に多くの事業所などがあるので、いつも誰かの目があるというのが強みの一つであると考え。 こども食堂など、新しいタイプの子どもの居場所作りをしていくのも大切ではないか。 安全対策については、子育て層同士が助け合いながら実施しているところが多いので、茨木にもそういったネットワークがあってもいいのでは。参考までに、横浜では「AsMama」という会社が興されている。 					

総合戦略進捗状況管理シート								
1	基本目標	6	安全安心にいつまでも暮らせるまち					
2	施策の方向性	6-2	災害に備える					
3	主な取組	6-2-1	防災体制の強化					
		6-2-2	防災意識の高揚を図る					
		6-2-3	施設等の耐震化を進める					
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)		基準	H27	目標		
		6-2-a	一時避難地防災機能強化	2カ所	H26	2カ所	14カ所	H31 (累計)
5	H27の主な 取組の成果 と課題	進捗状況 B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している						
		<p>防災意識の高揚のため、新たに河川流域での「水害研修会」、山地部での「土砂災害研修会」を実施するとともに、立命館大学等と連携して防災運動会を実施した。また、自主防災組織の半数以上（17校区）の参画を得て、市全域防災訓練を実施した。その結果、自主防災組織が未結成の校区でも、自主防災組織化の機運が高まりつつある。そのほかに、土砂災害危険区域に該当する12地区で、住民との協働による「地域版ハザードマップ（土砂災害）」の作成が完了し、自治会を通じて配布している。</p> <p>防災士養成については、新たに創設した補助制度により、新たに14人が防災士の認証を取得した。市有建築物の耐震化については、平成27年度は3施設の耐震改修を実施し、耐震化率は94.7%となる見込みであるが、本年度以降は国庫補助金等の動向が事業の推進に影響する懸念がある。</p>						
6	今後の 方向性	<p>一時避難地防災機能強化のため、平成28～31年度までの4か年で計画的に12か所の防災施設の整備を行う。</p> <p>避難行動要支援者対策については、対象者名簿を平常時から地域（民生委員、自主防災組織等）と共有するため、今後、個人情報研修を実施後、支援機関と「名簿の適切な管理に関する協定（仮称）」を締結し、順次配布を進める。</p> <p>茨木市自主防災組織連絡会女性部会を設置するとともに、女性リーダー育成研修会の対象者を自主防災組織の会員だけでなく一般市民に拡大して実施する。さらに、関係課と連携し、子育て世代への啓発事業を実施する。</p> <p>また、浸水被害の最小化を図るため、下水道施設の雨水管渠等の整備を進めるとともに、浸水実績のある地域での浸水対策工事を計画的に進める。</p>						
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・防災運動会などのイベントも、企画段階から自主防災組織や、やりたい人に任せればいい。市が粛々と行うのではなく、みんなで作り上げる中で、地域活動のあり方を考えるきっかけになる。 ・子育て世代への啓発事業の事例として、NPOノーベルの「子育ておかんの防災サバイバル手帳」などがあるので参考にしてみてもどうか。 						

総合戦略進捗状況管理シート

総合戦略進捗状況管理シート								
1	基本目標	6	安全安心にいつまでも暮らせるまち					
2	施策の方向性	6-3	消防・救急・医療体制の充実					
3	主な取組	6-3-1	応急手当の普及啓発活動					
		6-3-2	消防・救急体制の強化					
		6-3-3	市内医療体制の充実					
4	KPI (重要業績 評価指標)	KPI (重要業績評価指標)			基準		H27 (1~12月)	目標
		6-3-a	市内救急搬送率		39.5%	H25 (1~12月)	43.5%	上昇 H31
5	H27の主な 取組の成果 と課題	<p>進捗状況 B 基本目標の実現に向け、施策の方向性がおおむね順調に進行している</p> <p>消防・救急体制の充実強化について、職員の災害対応能力の向上、車両・資機材の整備や消防団員が安全かつ効果的な活動ができる環境づくりを推進するとともに、救急隊員の資質向上と医療機関との連携強化を図るなど、平成27年度の計画は順調に進行した。</p> <p>また、高齢化の進展による救急需要の増加に対応するため、応急手当の普及や救急車の適正利用についても、啓発する。</p> <p>市内搬送率については、50%を目指し、補助制度を取組を進めてきたところであるが、患者が一定数以上に達すると受入が出来ず、他市に依存してしまう状況となっている。現行の補助制度で、既存の病床数やスタッフの医療資源を最大限に活用できたとしても、病床数や医師の不足により、これ以上の上昇は見込めないと考えられる。</p>						
6	今後の 方向性	<p>新名神高速道路等での事故や災害に対応するため、救助に必要な資格取得や、資機材の整備に努めるとともに、市内公共施設等設置AEDの利用時間帯拡大については検討を継続する。</p> <p>また、平成28年度は補助制度を継続するが、目標設定や補助制度のあり方について見直しを行う。</p>						
7	外部有識者 からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIは「市内救急搬送率」より「到着時間」のほうが相応しいのではないか。 ・救急医療の1次、2次、3次の違いを市民にわかりやすく伝えることが必要である。3次救急医療まで市内にこだわる必要はないのではないか。 ・総合病院より小さな病院のほうが丁寧によく見てくれることもある。身近に信頼できるかかり付け医がいることが大事である。 						